



しまんと防祭フェス 2023

～ 平時を楽しみ、有事に備える ～



「ここから始まる！地域防災の新たな形！」



「平時を楽しみ、有事に備える」をコンセプトに「しまんと防祭フェス2023」が令和5年12月10日、四万十緑林公園で初めて開催され、多くの来場者でにぎわった。

窪川地域の自主防災組織で構成する四万十町自主防災組織連絡協議会窪川支部が主催。「訓練に人が集まらない」「訓練に来る人はいいつも同じ」「後継者もない」、そんな各組織が抱える課題を解決しようと企画された。会場内には地震や降雨、火災煙を体験できるコーナーや自衛隊、警察、消防などの緊急車両の展示のほか、仁井田地区自主防災組織による豚汁などの炊き出し、日赤奉仕団による防災缶詰のアレンジ料理なども無料で提供された。中でも大盛況だったのが、自主防災組織対抗「防災大運動会」。

今回はその内容も含め、子供からお年寄りまで、たくさん笑顔がはじけた「しまんと防祭フェス」の様子を写真で紹介する。



住民同士の連携が地域を救う！

「受付はこちらです」「こっち手伝って！」「がんばれ！」「疲れたあ」会場から聞こえるにぎやかな声。防災大運動会の参加者たちの表情は、自然と笑顔で、どこか楽しそう。地域も年代も関係なく、そこにいる者同士が、声を掛け合い、必死にバケツで水を運ぶ姿を見て、胸が熱くなった。

南海トラフ地震のような大規模災害時、求められるのはまさに人と人との助け合い、連携、心遣いである。この運動会に参加し、体を動かし、声を掛け合い、共に楽しむ中で、参加者たちが有事に備えられたのなら、これ以上のことはない。

「防災」の最初のきっかけに！

「あんな100ミリの雨って本当に降るが？」「震度7は何もできんわ」「帰ったら非常用持出し袋、作ろうね」。この日、来場者のおのおのが感じたその感覚。自ら興味を持って、楽しく触れた「防災」ブースでの感覚。

皆さまにとって「しまんと防祭フェス」の開催が、防災に興味を持つ「最初のきっかけ」になればと願う。

